

在宅歯科医療連携室整備事業研修会Web

2022年 3月12日(土)

【受講対象】

山形県歯科医師会会員、スタッフ、山形県内医療・介護・福祉・保健関係者
・ご家族等（歯科関連職以外の方も是非ご参加ください）

【演題】 オンラインで学ぶ訪問歯科診療のup to date

第1部：かかりつけ歯科医院が実践する地域多職種連携

第2部：障害児者への訪問歯科診療、摂食嚥下マネジメントについて

講 師 医療法人メディエフ寺嶋歯科医院

副院長 松野 頌平

日程

13：50 Web配信開始

14：00 趣旨説明・講師紹介

14：10 講演

質疑応答

17：00 終了



講師の抄録・略歴は裏面をご覧ください。

【申込方法・締切】



受講希望の方は、左記QRコードまたは山形県歯科医師会
ホームページより3月4日(金)までお申し込みください。
3月7日以降、登録アドレスに招待メールをお送りします。

主催：一般社団法人山形県歯科医師会 <https://www.keishi.org/>

問い合わせ先：〒990-0031 山形市十日町2-4-35

山形県歯科医師会 TEL 023-632-8020 FAX 023-631-7477



オンラインで学ぶ訪問歯科診療のup to date

第1部：かかりつけ歯科医院が実践する地域多職種連携

第2部：障害児者への訪問歯科診療、摂食嚥下マネジメントについて

医療法人メディエフ寺嶋歯科医院
副院長 松野 頌平

歯科医療従事者が適応すべきエポックメイキングな変化が目前に迫ってきている。この過程にかかわる医療的・社会的因子として挙げられるのが、「超高齢社会の進展」と「周産期医療の進展」である。

2025年問題で論じられている後期高齢者の急増、障害者やその介護者の高齢化などの影響により、これまでは通院可能であった患者層が通院困難となり、高齢者における訪問診療の需要が増大することが予想されている。一方、医療の進歩により、医療的ケア児（NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃瘻等を使用し、痰の吸引や経管栄養等の医療的ケアが必要な障害児のこと）の数が10年間で約2倍に増加しており、訪問診療を必要とする子どもも今後さらに多くなることは明白である。このような時代の変遷の中で、子どもから高齢者まで、障害児者の幅広いニーズに対応した訪問歯科診療を実践できる地域レベルでの体制の構築が期待されている。

訪問歯科診療の重要なミッションのひとつは、障害児者の日常生活を支えることであり、その要素として、①生命の安全、②健康の維持、③社会生活の保障が必要とされている。これらを達成するために、歯科医療従事者が実践できるタスクとして、障害児者の摂食嚥下マネジメントがある。嚥下障害に対応するためには、地域の多職種が連携して様々な課題に取り組んでいくことが求められる。障害児者の嚥下障害は病態によって重症度が左右されることに加え、経年的変化の個人差が大きいことから、一般的には対応が困難とされている。この嚥下障害に対する歯科の重要な役割として、口腔の形態的・機能的変化、嚥下機能の変化を適切に把握することが挙げられる。こういった歯科目線でのアプローチが、地域での食支援にとって不可欠なコンパスになりうることを実感している。

それぞれの地域に存在する多職種連携の中で、新時代のかかりつけ歯科医院が熟考すべき歯科的イシューについて、活発に議論できるオンラインセミナーになれば幸いである。

【略 歴】

2009年 大阪大学歯学部卒業

2014年 大阪大学大学院歯学研究科卒業

重症心身障害児者施設四天王寺和らぎ苑 歯科科長

2017年 医療法人メディエフ寺嶋歯科医院 副院長

歯と口の機能支援センターみのお（TOCみのお）センター長